

<実践事例>

グローバル・サイエンス・コースの週次勉強会における 学生の主体的な学び

伊木 貴子¹

京都産業大学のグローバル・サイエンス・コースは、外国語学部の協力のもと理学部・コンピュータ理工学部・総合生命科学部の理系3学部に設置されている。本コースでは、月例の必須参加の勉強会を主な活動の一つとしているが、それとは別に自由参加の週次の自主勉強会を行っている。週次の自主勉強会は、コース開始当初から教職員が主催して実施しており、英語学習を中心に会話練習、長文読解、英文法、プレゼンテーション支援、英語の科学ニュース番組の視聴など、様々なコンテンツを提供してきた。平成28年度から、GSC学生リーダー会が発足したことをきっかけに、一部の勉強会は学生が担当となり、企画・実施している。本報告では、特に学生が企画した勉強会に焦点を当て、学生の主体的な学びと成長について報告する。

キーワード：GSC、学生リーダー、主体的な学び、英語学習

1. はじめに

グローバル・サイエンス・コース（以下、GSC）は、平成26年度に開設され、理系3学部から選抜された約180名の1～3年次の学生が登録され、日々活動している（平成28年12月1日現在）。GSCの登録学生は、必修科目の「特別英語（英語サマーキャンプ）」と、各学部で定められた所定の科目を履修し、月例の勉強会に出席することを求められている。月例の勉強会では、海外での研究経験のある本学教員による講義や、海外の教員や本学の大学院生（先輩）を講師に招いた講義などを通して、グローバル社会で活躍するためのヒントを得ている。

上記の勉強会以外に、学生が顔を合わせ勉強する場として企画・実施されているのが週次の自主勉強会「GSC+」である。GSC+は、本学の教職員が中心となり、英語に関わる学びのコンテンツを学生に提供してきた。これまでに、理系の英語の文献を読解、英語の科学ニュースを視聴、e-learning（自学自習）システムの利用、英文法の解説、プレゼンテーションの支援などを実施した。時には学生の要望を聞きながら、学生にとってGSC+がより良い学びの機会となるよう、参加者に合わせて内容や実施時間を変更するなどした。

平成28年度からは、GSCの中で「GSC学生

リーダー会」が発足したため、教職員からリーダー会にGSC+の実施内容の検討と学生の目線での勉強会の企画を依頼した。これまで「参加者」としてGSC+に関わった学生が「GSC生に必要なもの」「将来身に付けなければいけないこと」「自分たちがやれること」といった視点で検討を重ねた結果、平成28年度の4つの企画のうち2つをリーダー会が、残りの2つを引き続き教職員が担当することとなった。

GSCの学生リーダーに運営を委任してから1年近く経つが、少しずつ「自分たちがやりたかった勉強会」の形に近づいていることが伺える。勉強会の回数を重ねるごとに、進行や配布物に工夫を重ね、参加者にとってより良い勉強会となるよう努力している。また、参加者側の学生たちにも、「先輩（あるいは同期や後輩）がやっているから、参加しよう」という意識の学生が見受けられる。GSCの学生の中で学部の枠を超えたコミュニティができ、学生同士のつながりが少しずつできていると考えられる。

本報告では、これまでのGSC+を振り返るとともに、GSCの学生リーダー会発足から派生して生まれた学生の自主的な学びの場の創設と現在の運営について報告する。また、企画を担当した学生へのインタビューを通じて、自主勉強会の今後やGSCの学生の成長を推察する。

¹ 京都産業大学 教育支援研究開発センター グローバル化推進室

2. 週次勉強会「GSC+」の概要

GSCの週次勉強会である「GSC+」は、学びのペースメーカーとして、英語の自主的な学習の場を提供する目的で実施している。GSCの登録学生を含む理系3学部生を対象として、GSCが開設された平成26年度の秋学期から開催している。

2.1. 平成26～27年度までの実施内容

平成26年度の秋学期にGSC+が始まった当初は、月に数回不定期に実施しており、英会話の練習や理系の英語文献の読解などのコンテンツを提供していた。発足当時はGSC生の時間割等を考慮し、朝の早い時間や昼休み、夕方などの空き時間に設定し、学生が参加しやすいよう実施時間を工夫して開催した。英語の自己紹介やディスカッションの英語表現を学ぶことなどを中心に実施し、職員が中心となって学生に参加を呼びかけた。会話の勉強会は人気が高く、平成27年度も継続して実施することとなった。

平成27年度には、担当する教職員を増やし、英会話だけでなく英語の科学ニュースの視聴、e-learning（自学自習システム）を利用した学習、理系英語の長文読解、プレゼンテーション支援など、様々な学びの機会を提供した。春学期は、参加者数の推移を確認しながら、実施時間を変更したりコンテンツを変更するなど試行錯誤を繰り返した（図1）。

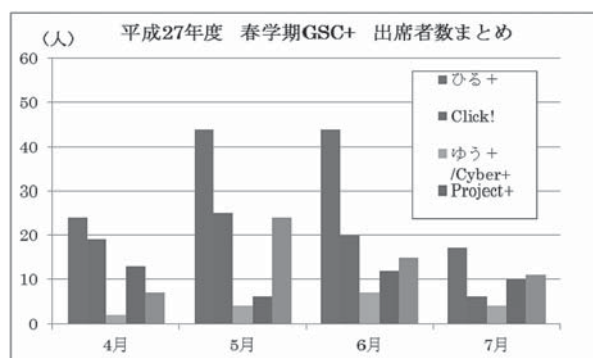


図1. 平成27年度 春学期 GSC+ 出席者数

秋学期には、現在の「ほぼ毎日お昼休みに開催」の形が出来上がり、開催場所も同じ教室を使用して学生が参加しやすい環境を整えた。参加する学生が増えただけでなく（図2）、少しずつ内容ごとに参加者も固定されてゆき、各勉強会の中心となるメンバーが決まり始めた。その様子を見て、学生に運営を少し手伝ってもらい、英会話の練習であれば会話をリードする役を担ってもらいなど、

学生中心の勉強会となるよう、少しずつ工夫を重ねていった。

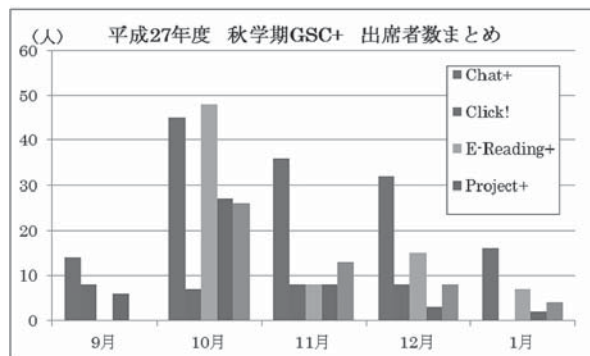


図2. 平成27年度 秋学期 GSC+ 出席者数

2.2. 平成28年度の実施内容

平成28年度には、GSCの中にGSC学生リーダー会が発足し、同会がGSC+を含むGSCの様々な活動内容を学生目線で企画・検討することとなった。同会と教職員との会議の中で、GSC+の昨年度までの内容を踏まえて本年度の実施内容を学生リーダー会で検討し企画してほしい旨を教職員からの要望として伝えた。学生同士で議論した結果、これまでに教職員が実施したコンテンツの中で継続して実施したいものが2つ、GSC学生リーダーが中心となって実施したいものが2つ提示され、春学期より実施することとなった。

まず、英会話の練習の機会として、職員による「Chat+」を継続して実施してほしい旨が学生より伝えられた。Chat+は、GSC+で実施されている様々な勉強会の中で特に人気が高く、平成27年度は最も多くの学生が参加した勉強会である。

次に、リスニング力を鍛える機会として、教員による「World Science Direct」を継続して実施してほしい旨が伝えられた。World Science Directは、BBC Newsの科学ニュースに関するコンテンツを提供しており、英語の試験対策としてリスニング力の強化と科学英語の習得とを目的に継続を希望する旨が学生から教員に伝えられた。

更に、学生が自ら実施したいコンテンツとして、「Movie+」と「TOEIC（秋学期からは「小森君のといっく教室」と名称を変更）」が提案され、学生リーダーの了承を得て実施が決定した。どちらも、学生が「自分たちが勉強したいこと」「自分たちができること」という視点に立って、実施を計画した。いずれも、本年度の実施内容の中では人気の高い勉強会であり、学生ならではの企画として定着しつつあることが伺える。

春学期は、前年度同様、英会話を楽しむChat+

の参加者が最も多く、次いで4月末から Chat+ に代わり実施された学生企画の Movie+ であった(図3)。映画を観るという気軽さと、企画担当者の話が面白いという理由で継続的に参加する学生が多かった。

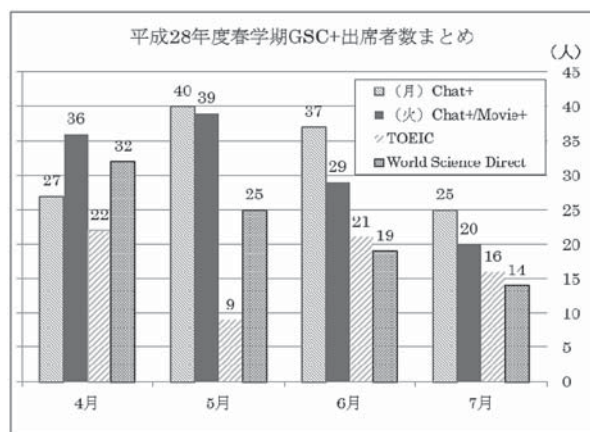


図3. 平成28年度 春学期 GSC + 出席者数

秋学期も引き続き同じ内容が実施されたが、Chat+ は参加者数が春学期に比べると減少傾向にある。これは、春学期に Chat+ に参加していた留学生が帰国してしまったこと、担当職員が変わってしまったことなどが原因として考えられる。Chat+ とは対照的に、「小森君のといっく教室」は少しずつ参加者数が増えている。参加する学生は毎回ほぼ同じ学生であるため、顔なじみの学生同士が話し合いながら TOEIC の勉強をするスタイルが受け入れられたためと考えられる。これまでの参加人数は、4つのコンテンツの中でも特に多い(図4)。

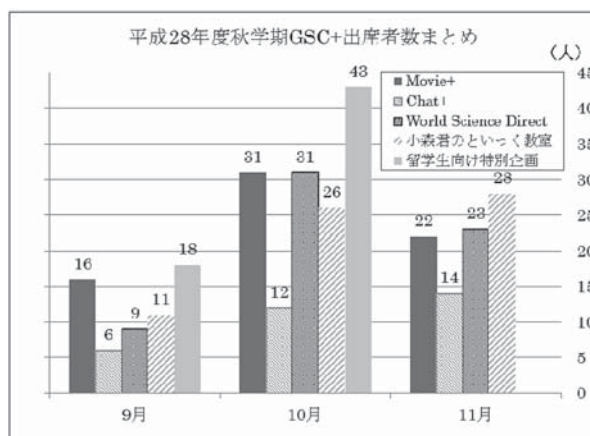


図4. 平成28年度 秋学期 GSC + 出席者数¹⁾

3. 学生の主体的な学び

前述のとおり、平成28年度からの GSC+ のコンテンツは、学生自らが学びたいことまたは自分たちがやりたいことをテーマに実施している。特に、学生が自ら実施しているコンテンツは、学生自身が良いと思うものを学生に提供しているからか、人気が高く毎回参加している学生が半分を超える。本稿を執筆するにあたり、企画担当の学生にインタビューを行い、企画のきっかけや実際に運営した感想、今後行いたいことなどを聞き取った。

3.1. Movie+

Movie+ は、参加者全員で毎週洋画を視聴し、企画担当の学生が配布した資料に基づいて解説し英語表現を学ぶ勉強会である。映画は企画担当者(1名)が選定し、英語字幕を付けて視聴する(図5)。配布資料は、企画担当者が特に重要と考える口語的表現や難しい英単語、物語の重要部分の英文と和訳が書かれている。物語の流れで重要な部分や登場人物が冗談を言っているシーンなどでは自分なりの解説を加え、参加者に映画を楽しんでもらえるよう工夫している。



図5. 平成28年度 Movie+ のようす

担当者に、映画を視聴して英語を学ぶ勉強会を企画したきっかけを聞いたところ、中学生のころの英語学習に由来するということだった。映画やドラマなどで学んだ表現を英語の先生に言ってみるという経験を重ねた結果、楽しく英語を学ぶことができたため、その体験を他の人にもしてほしいと思ったそうだ。また、自分の好きな映画をみんなに知ってもらいたい、という気持ちもあり、毎回の資料の準備に時間がかかっても継続的に実施できているのではないかとインタビューから伺えた。

今後の抱負について聞いたところ、「映画の台詞

の表現を使って英会話の練習をする時間を取り、参加者に映画で英語を学ぶことの楽しさを実感してもらいたい」と語った。また、他の人にも自分の好きな映画で Movie+ の運営をする体験をしてほしいとのことだった。

3.2. TOEIC/小森君のといっく教室

TOEIC（平成 28 年度秋学期からは「小森君の TOEIC 教室」に名称変更）は、企画担当者が選定した TOEIC の演習問題を解き、みんなで答えを共有して議論し合う勉強会である。担当者は 2 名で、問題選定および解説担当者と当日運営担当で役割分担をして毎週実施している。現在は、5～6 分で解ける分量の問題を解き、そのあとはペアになって答えを見比べながら「なぜその選択肢が正解／不正解だと思ったか」を議論する（図 6）。最後に、担当者の司会で全体で意見を共有し、正解が発表される。必要に応じて、担当者から解法の補足説明が入る。



図 6. 平成 28 年度 小森君の
といっく教室のようす

担当者に、まず 2 人で GSC+ をやろうと思ったきっかけについて尋ねた。GSC の秋学期集中科目「海外サイエンスキャンプ」で知り合って意気投合し、学部・学年の枠を超えて交流するようになり、「一緒に何かやりたい」という気持ちから GSC+ の運営に興味をもったとのことだった。GSC+ は英語の自主勉強会であるため、「英語学習に関する勉強会を実施しなければならないが、英語力の足りない自分たちが一緒にやれる方法はないか」と考えた末に、現在の問題選定・解説担当と運営担当という役割分担による 2 人体制の TOEIC 勉強会を発案したとのことだった。

運営上の苦労や準備で大変なことについても尋ねたが、十分な役割分担ができていて「大変なことではない」とのことだった。開始当初に問題集の相談を職員にした以外は、問題の分量や、

リスニングとリーディングの問題量のバランス、時間配分に至るまですべて自分たちで考えている。職員に何か尋ねることはほとんどないため、まさに、自主的な学びであると言える。

今後は、約 1 年実施してきた自分たちの勉強会で TOEIC のスコアが上がったかどうかを確認するため、まずは TOEIC を受験して効果を確認したいとのことだった。また、問題演習の後のディスカッションをより充実したものにしていきたいとのことだった。

3.3. 留学生向け特別企画

9 月から留学生が多くなるため、学生リーダー会議で「留学生を迎えるイベントを作りたい」という発案があり企画された。学生リーダーそれぞれが自分たちでできる日本に関する発表について考え、学生リーダーが中心となって以下のとおり実施した。

表 1. 平成 28 年度 留学生向け GSC+

日程	内容
9 月 27 日（火）	京都について （おすすめの場所など）
9 月 30 日（金）	方言
10 月 3 日（月）	日本の御飯（お雑煮など、地域性 の出る食べ物の紹介）
10 月 4 日（火）	日本生まれで、世界に広く使わ れている （知られている）ものの紹介
10 月 6 日（木）	阿波踊り
10 月 7 日（金）	Cool Japan（漫画・アニメ）

留学生の参加者数は学生の見込みより少なかったが、その後の学生リーダー会議で「今度は GSC 生が海外に行ったときに日本のことを説明できるようにという目的で、このイベントを再構成して来年度実施したい」という意見があった。GSC の育成の柱の 1 つでもある「アイデンティティの確立」につながる取組が学生リーダーから発案されたことは、GSC の取組が実を結んでいる兆しともいえる。

4. まとめ

本年度の GSC+ では、学生リーダーの企画と教職員の企画を 2 つずつ実施しており、いずれも学生リーダーの要望で実施されたものであるが、学生リーダーの企画は教職員の企画を比べても遜色

なく学生の支持を得て毎週一定数の参加者を得ることができている。今後、参加者への満足度をアンケートを実施するなど定量的な調査する必要があるが、参加者に個別に話を聞くと、「前に出て話している学生が良い」との意見が多かった。学生の自主性を重んじて企画から運営まで GSC 学生リーダーに依頼し約 1 年が経とうとしているが、GSC の 1～3 年次生に広く受け入れられているようである。

今後、GSC 学生リーダーは現 3 年次生が退任し現 1 年生からリーダーを新たに選出し、代替わりをする予定である。今後は現学生リーダーが築いた GSC+ の土台を後輩が引き継いでいくことが学生リーダーによる自主的な取り組みの継続性の鍵となる要素の 1 つと言えるだろう。

謝辞

本稿作成において、ご協力いただきました GSC の学生リーダーの皆様ならびに GSC 生の皆様、本学教職員の皆様に感謝いたします。

注

1) この図の数値は、平成 28 年 12 月 1 日現在のものです。

参考文献

- 千葉美保子 (2016) 主体的な学びを促進するための学習支援構築に向けて—学生へのヒアリング調査から—, 高等教育フォーラム 6: pp.97-102
- 西村典優, 石橋陽一, 足立薫, 水口充, 中村暢宏 (2016) 理系向け短期留学プログラム「海外サイエンスキャンプ」の目的と効果, 高等教育フォーラム 6: pp.65-70

Independent Learning of Global Science Course Students at Weekly English Study Session

Takako IGI¹

Kyoto Sangyo University Global Science Course (GSC) started in fall semester in 2014. GSC students are expected to attend monthly studying events, one of the main programs of this course. In addition, there is a weekly English study session “GSC+,” mainly managed

by university staff and professors. In 2016, GSC Student Leaders Board started, and staff requested the Leaders to discuss what they want to do at GSC+. Through the discussion, the Leaders decided to ask university staff and professors to continue two study sessions they provided in 2015, and started new English study sessions ran by the Leaders.

This report overviewed how staff and professors managed GSC+, and how the Leaders improved their own English study session. The interview of the GSC Student Leaders who are in charge of GSC+ represents their independent learning in the course.

KEYWORDS: GSC, Student leader, Independent learning, English study

2017 年 1 月 16 日受理

¹ University Internationalization Project, Center for Research and Development for Educational Support, Kyoto Sangyo University

